

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-289359

(43)公開日 平成7年(1995)11月7日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 7 B 13/08

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-113509

(22)出願日 平成6年(1994)4月27日

(71)出願人 000102980

リンテック株式会社
東京都板橋区本町23番23号

(72)発明者 岡部 秀晃

埼玉県浦和市辻7-7-3

(72)発明者 小暮 正男

埼玉県北足立郡吹上町新宿1-199-4

(72)発明者 齋藤 隆則

埼玉県三郷市さつき平2-2-2-604

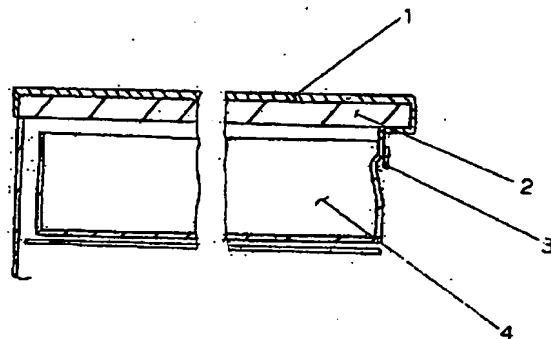
(74)代理人 弁理士 滝田 清暉

(54)【発明の名称】 病院内で使用する机又はテーブル

(57)【要約】

【目的】病院内におけるMRSA感染を防止するに適した机又はテーブルを提供すること。

【構成】少なくとも、天板の外部表面が、耐メシチリン性黄色ブドウ球菌に対する殺菌性物質を含有する樹脂層で被覆されていることを特徴とする、病院内で使用する机又はテーブル。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】少なくとも、天板の外部表面が、耐メシチリン性黄色ブドウ球菌に対する殺菌性物質を含有する樹脂層で被覆されていることを特徴とする、病院内で使用される机又はテーブル。

【請求項2】天板の外部表面と共に、引出し前面の全外表面が、耐メシチリン性黄色ブドウ球菌に対する殺菌性物質を含有する樹脂層で被覆されていることを特徴とする、病院内で使用される机又はテーブル。

【請求項3】全ての外部表面が、耐メシチリン性黄色ブドウ球菌に対する殺菌性物質を含有する樹脂層で被覆されていることを特徴とする、病院内で使用される机又はテーブル。

【請求項4】殺菌性物質がリパルスである請求項1～3の何れかに記載された、病院内で使用される机又はテーブル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は机又はテーブル（以下机等とする）に関し、特に、耐メシチリン性黄色ブドウ球菌（以下、MRSAという）に対する殺菌性があり、病院内において使用するのに好適な机等に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、病院での治療期間が長くなり、或いは細菌に対する抵抗力の低下した病人の病院での治療機会が増大したことに伴い、MRSAによる院内感染が大きな問題となるに至った。そこで、最近、種々のMRSA殺菌性素材が開発され、手袋等のディスポーザブルな用途に応用されているが、MRSAに対する殺菌性を付与した机やテーブルその他の物置台については未だ知られていない。

【0003】本発明者等は、MRSA殺菌性物質を含有するフィルムについて鋭意検討するうち、医師や看護婦等が使用する機の表面にMRSA殺菌性を付与することが、院内感染防止に極めて有効であることを見だし、本発明に到達した。

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的は、病院内におけるMRSA感染を防止するに適した机又はテーブルを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の上記の目的は、少なくとも、天板の外部表面が、耐メシチリン性黄色ブドウ球菌に対する殺菌性物質を含有する樹脂層で被覆されていることを特徴とする、病院内で使用される机又はテーブルによって達成された。本発明における机又はテーブルとは広い概念であり、引出しの有無を問わず、事務机、その他の小机、テーブル、手術台、カウンター、その他、一般に、物を載置する台等を包含する。従って、天板とは、物を載置し得る最上部の板を意味し、通常の機の天板のみならず、手術台等の各種台の載置板を

2

も意味する。本発明で使用する、机等の表面の樹脂層に含有させる耐メシチリン性黄色ブドウ球菌（MRSA）に対する殺菌性物質は、MRSAに対する殺菌性を有する物質であれば特に限定されるものではない。

【0005】MRSA殺菌性物質としては、例えば、塩化ベンザルコニウム、塩酸アルキルジアミノエチルグリシン、グルコン酸クロルヘキシジン、ボンビドンヨード、グルタルアルデヒド、天然多糖類であるキトサン、超微粒子酸化亜鉛（Zコート液の商品名で住友セメント株式会社から市販されている）、殺菌作用を有する金属イオンを保持しているアルミノ珪酸塩系固体粒子（特開平1-263175号公報）、コロイダル銀（特開平3-122162号公報）、リパルス（済和化学株式会社製の商品名）等を挙げることができる。

【0006】本発明においては、これらの中でもキトサン、超微粒子酸化亜鉛、アルミノ珪酸塩系固体粒子（特開平1-263175号公報）、コロイダル銀（特開平3-122162号公報）又はリパルス（済和化学株式会社製の商品名）を使用することが好ましく、特に、MRSA殺菌性を良好とする観点からリパルスを使用することが好ましい。

【0007】本発明においてMRSA殺菌性物質を含有する樹脂層に使用する樹脂は、机等を構成する天板等の基材に被覆することができる樹脂であれば特に限定されるものではない。このような樹脂としては、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン系樹脂、アクリル樹脂、酢酸ビニル樹脂、ウレタン樹脂、ABS樹脂、ポリアミド樹脂、ポリエステル樹脂等が挙げられる。

【0008】MRSA殺菌性物質は、固体分散状態、乳化分散、或いは樹脂の可塑剤と共に溶液状態で含有させても良いが、何れにしても、後述する如く、樹脂としてはMRSA殺菌性物質との相溶性が良いものを選択することが好ましい。このような観点から、本発明においては、特に、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン系樹脂、アクリル樹脂、ウレタン樹脂、ABS樹脂、ポリエステル樹脂を使用することが好ましく、特にポリエチレン樹脂を使用することが好ましい。

【0009】MRSA殺菌性物質の樹脂に対する含有量は、殺菌性及び経済性の観点から0.1～5重量%の範囲であることが好ましい。0.1重量%未満ではMRSAに対する殺菌性が劣り、5重量%を越えても、効果が飽和するのみならずコスト高となる。机等を構成する天板等の基材の表面に前記樹脂層を設けるに際しては、前記殺菌性物質を含有する、樹脂塗布液を塗布・乾燥することができる他、予め、殺菌性物質を含有するフィルム又は上記の樹脂塗布液を塗布して表面をコーティングしたフィルムを作製し、例えば、機の天板の表面に貼着したりすることができる。予め作製したフィルムを使用する場合には、特に、裏面に粘着層を設けておくこともできる。この場合の粘着層としては、アクリル系等、公知

の組成のものを使用することができる。本発明においては、MRSA感染を有効に防止する観点から、医師等の接触の機会の多い、机の天板の外部表面に樹脂層を設けるが、使用頻度の高い引出しの取手等の部分にも前記樹脂層を設けることが好ましく、全外部表面を前記樹脂層で覆うことが最も好ましい。

【0010】本発明の机等に使用する基材は、特に限定されるものではなく、通常使用される鉄板、木材等の中から適宜選択すれば良い。本発明の机等は、病院内におけるMRSA感染を防止する観点から、病院内のいずれの場所においても使用することができるが、特に医師や看護婦が医療器具を使用する際に触れることが多い、診察室や手術室に使用することが好ましい。

【0011】次に、本発明の机等を、実施例にもとづいて説明するが、本発明はこれによって限定されるものではない。図1は病院の診察室に用いた本発明の机の正面概略図であり、図2はそのA-A'断面図である。図中、符号1は、患者をMRSA感染から防止するための、MRSA殺菌性物質を含有する樹脂層、2は前記樹脂層を被覆した天板、3は引出し用取手、4は引出し、5は本発明の机である。例えば、上記樹脂層1を設けた天板2の上に、患者等を診察するために使用した医療器具を机の上に置いたために、天板にMRSAが付着しても、MRSAは直ちに殺菌されるので、机からの二次感

染が有効に防止される。

【0012】机は、医師や看護婦等が頻繁に接触するので、その表面はわずかづつ磨耗し、いつも新しい面がでると考えられるので、MRSA殺菌性物質は樹脂表面に浸み出す必要がない。従って、樹脂とMRSA殺菌性物質の相溶性は良いことが好ましい。この点は、人が余り触れることのない壁等に、カビの発生を防ぐために使用される防カビ剤を含有させる場合と考え方を異にする。

【0013】

10 【発明の効果】本発明の机又はテーブルは、少なくとも天板の外部表面にMRSA殺菌性物質を含有する樹脂層を設けているので、診察等の際に医師等によって付着させられたMRSAは直ちに殺菌され、他の患者に感染することがない。従って、本発明の机又はテーブルは、MRSAの院内感染防止に極めて有効である。

【図面の簡単な説明】

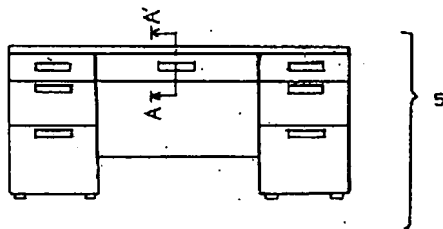
【図1】本発明の机の正面図である。

【図2】図1のA-A'部分断面図である。

【符号の説明】

- 20 1 MRSA殺菌性物質を含有する樹脂層
- 2 天板
- 3 取手
- 4 引出し
- 5 本発明の机

【図1】



【図2】

